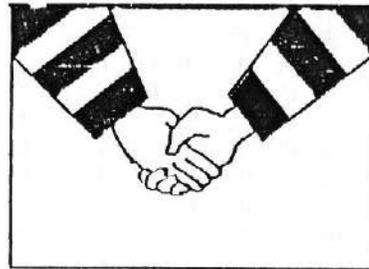


こどものへや



発行責任者 流川郁子
〒239 横須賀市長沢 87-2
TEL. FAX (0468) 49-8349

『小さき花の園』を訪ねて

二十五年間の歴史を刻んで

職員研修

『小さき花の園』を見学させていただきながら、二十五年間果たしてこられた役割の大きさを感じていました。

わが子に重い障害があると知った時の衝撃は、非常に大きいものでした。そんな時『小さき花の園』の存在を知り、何かあれば入所できるし、緊急一時保護もお願いできるという、少し心が安らいだことを覚えています。鎌倉の腰越の丘の上の、環境の素晴らしい所であることも安心の一因でした。又、昭和五十三年に在宅療育訪問指導を始め

て下さいました。家庭だけでなく、特殊教育研究所や作業所でも、訪問指導の先生にお会いできるようになり、少しでも長く家庭で、地域で生活させたいということが、親の願いです。ご相談にのって下さったり、様子を見て下さったりする先生を通して、施設とのつながりを持つていられることが、親のその願いを支えているのです。

現在五歳から三十八歳までの方が入所されています。正直なことを言えば、それにしても、廊下も部屋も全て少し狭いのではないかという印象を持ちました。重症心身障害児施設に関する法律ができた頃は、障害の重いこどもたちは長く生きられなかったので、おとなになる時のことまで考

慮されていなかったと聞いたことがあります。



所長 滝川郁子

近々、建物を建て替える計画があるとのこと、より充実した施設としてこれからも私たちが支えて下さることと思います。

温かい陽射しの中、海が一望できる素晴らしい高台に、『小さき花の園』を訪ねました。現在そこでお世話になっている幹大君に会える楽しみと、訪問指導に情熱をもって教えて下さり大変お世話になった佐藤先生のお話を伺ったりして、常々見学してみたいという思いが実現しました。ここで深く教えられる事が沢山ありました。指導員としては、看護婦さんや多くのボランティアさんにより、一人一人のケアが行き届いている。

- ・医療機関があるので安心だ。
- ・訪問学級で、生活リズムに変化があり良いと思う。
- ・食事時に、メニューを皆に知らせている様子など温かみを感じた。
- ・食事のカロリーがしっかり計算され、量など考えさせられた。

今年も、十二月九日の「障害者の日」の、キャンベーンに参加しました。京急久里浜駅前で、ボランティアの方々、作業所の職員や所員と一緒に、障害者のことを少しでも知って頂ければと、パンフレットと作業所の製品をお渡ししました。バスから降りて来た小学生の男の子とお母様に、「障害者の日のキャンベーンをしています」と製品を差し出した時のことです。「この子も障害者になるのかしら」という母親の一言。一瞬ハツとして男の子を見ると、耳に補聴器がありました。土曜日ですが小田原から、この近くの小学校の「ことばの教室」へ通っての帰りとのことでした。

加藤 日川 参 加 者 滝川 郁子

「頂いてもいいのかしら」と受け取って下さったことにホッとしました。が、思わず「ごめんさい」と何の意味もない言葉が口をついて出てきてしまい、情けない思いをしました。今年「バリアフリー」という言葉が、障害者も健常者もなく、ということでもよく使われました。あのお母様がおっしゃったように、ここからが障害者などという線はどこにもありません。品物も家も街も交通機関も、最初から全体的に人が使えるように考えられているハード面のバリアフリーが少しでも実践されること、何よりも人々の心がバリアフリーになるようにと思いました。

形にとらわれない食事風景が心に残る。

- ・ボランティアの床屋さんとの交流が、温かくすがすがしく見えた。
- ・等が印象に残りました。障害児の医療から教育まで備えた、心のこもった施設が、四半世紀の道のりがあるという事を知り、驚かされました。

『小さき花の園』と「鎌倉デイケアサービス」を見学

散髪と入浴の日でご多忙の中、佐藤先生やスタッフの方に時間を割いて頂き、ありがとうございます。東の間のふれあいに心を残した「鎌倉デイケアセンター」に向かいました。

このセンターも閑静な環境の素晴らしい所にあり、部屋に入ると明るく伸び伸びとして、演歌が流れているのが印象的でした。こも入浴の日で、少人数の方だけでした。部屋の雰囲気から、手作業出来る人が多いのでしょうか、丁度カレンダーを製作中の人もいて、大勢の目の前はにみながら楽しそうに作業をしていました。文化都市鎌倉ならではの芸術的な教室（民話・人形劇・折り紙）等が、ボランティアによって開かれていると、人づてに聞きまして、いつでも自由に行けて、多くの人と接する事で刺激があり、理想的なセンターだなと思いました。

二箇所の研修を終えた指導員は、古都鎌倉で「観光のおばさん」へと一転し、銀杏の葉が真黄色に色づきひらひらと舞降りる風情の中、初冬の小町通りを散策、楽しみました。

指導員 前田 邦子

暖かなクリスマス会

ツリー・歌・プレゼント・ケーキ等に大満足

十二月二十日、『こどものへや』の『音楽の日』にクリスマス会をしました。

当日、指導員は早くから集まり、部屋の飾り付けをしました。もう家庭ではこういう事をしなくなった人もいて、ツリーに飾りを付けたり手作りのリースを飾ったり、ピアノ譜面台・ホワイトボードにまで金のモールを飾り付け、皆とても楽しんでやっています。

準備がやっとできた頃、音楽を指導して頂いている新井先生と山本先生がお見えになり、所員もそいまして。部屋にはいろいろな飾り付けがしてあり、今日はいつもの音楽の日と違うと感じたのか、朝の挨拶の時、新井先生が「今日は皆さん、お天気がいいわね」とおっしゃったくらい、皆ニコニコ顔です。

「もみの木」「星の世界」「ジングルベル」等の歌の後、「ペチカ」の歌が始まると、暖かい歌に感じ入ったのか、先ず、充君が大あくび、真一君もあくびをし眠ってしまいました。気がつくとも慎吾君も眠っています。この様子に新井先生も思わずふさだしてしまいました。

歌の後は、いよいよプレゼント交換です。プレゼントは前の週、充君が指導員と買い物に行き、選んでくれた品物です。最初にジャンケンをして決めた順番で、プレゼント

に付いているひもを引っ張ります。何が当たるのか、見ただけではわかりません。袋を開けて見ると、サンタ様様のタペストリー・あらい熊のキーホルダー・ろうそく立て・水を入れて使うダンベル等があり、皆それぞれに合った物が当たったようです。

昼食は、今回も又『暖』にお願い

ちよつと楽しい話

① 友達が増えました

彼に初めて出会ったのは、ボカボカと暖かくなったこの春四月、頃よく咲いた桜の花を皆で見ていた時でした。彼は近くに住んでいるらしく

やはり散歩の途中、桜の花の下にいた私達と挨拶をかわし、しばらくして別れたのでした。それから度々、散歩の途中に『こどものへや』へ寄ってくださるようになりました。彼の

お母さんは皆が勉強中だからと恐縮し、草々に帰ろうとするのですが、何故か彼はここを好きになってくれて、ガンとして動かなくなってしまうのでした。寄らずに行こうとする

しました。テーブルの上には、店長の心尽くしのご馳走が並べられ、美さんはだんだん体が前に出てきて早く食べたいという感じ、康雄君もテーブルを見回して、次はこれと催促の手が出る程、皆どの料理もおいしく頂きました。



腹が一杯になったところで、クリスマス会は終わりになりました。慌ただしい年末が控えています

② けっこういけるね
ビールで楽しく、ほどよく

十二月の特総研での事です。例によって個々の練習(ウオーカーやトランポリン等)の後、忘年会を兼ね

ランポリン等)の後、忘年会を兼ねて、二十歳を過ぎたのだからビールで乾杯でもしようかと言う川住先生の提案で、朋美さん・真一君・充君が缶ビールを頂きました。康雄君は体調が悪いので遠慮して、慎吾君は

皆と一緒に楽しい時間が持てた事をありがたく思いました。

十月〜十二月のバザーの報告とお礼

のびのびフェスティバル(野比老人ホーム)・追浜公民館バザー・生活協同組合まつり・三浦高校文化祭・ふれあいセンセイション・s.s・ハイルランドバザー・三浦藤沢信用金庫チャリティバザー・長沢フリーマーケットに参加しました。主催者の方、又協力して頂いたボランティアの方々にお礼申し上げます。

飲ませたいお母さんの意志に反してそれどころではない自分自身の生理的現象で残念ながらパスしました。側で見ていて飲みたくなる気持ちを抑え、皆で注目です。朋美さんは、ほんのちよつと口にしただけなのに「エエもう充分頂きました。だいたい酔いました」とばかりのトロンとした目がかわゆい。かわゆい。真一君は全く変わらず「なんのママダ酔ってはいません。だいたいようぶ、だ

いじようぶと、ポーカーフェイスぶり。充君はと言うと、始めの一口に一瞬苦そうな顔をしましたが、どうも味を覚えてしまったようです。「エエ酒はそこそこ好きな方も」そしてニコニコと笑い上戸にも見え

一月行事予定
十二月二十五日〜一月五日 冬休み
九日・スポーツ教室
十六日・職員会議
十七日・特総研
二十日・SKY研修会
おやこ劇場
二七日・横須賀地区作業所連絡会
研修会

◎ ありがとうございます

- ◎ 介助ボランティア・成枝直美様
- ・ 沢田文子様
- ・ 福田香代子様
- ・ 山本利子様
- ・ 新井光枝様
- ・ 大沢央子様

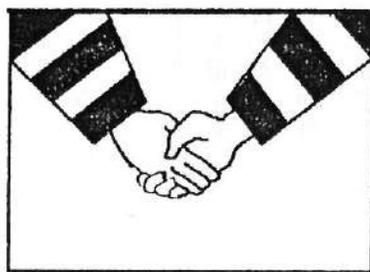
- ◎ 作業ボランティア
- ・ 堀江君代様
- ・ 熊本美枝子様
- ・ 杉原静子様
- ・ 石田妙子様
- ・ 垂見和子様
- ・ 山口美津枝様
- ・ 土川八重様
- ・ 安田靖子様

- ◎ 寄付
- ・ 大古スミエ様
- ・ 山本利子様
- ・ 福田香代子様
- ・ 吉原貴美子様
- ・ 浜田芳子様
- ・ 勝又秀夫様
- ・ 三浦藤沢信用金庫様
- ・ 船山秀子様
- ・ 日本アムウェイ様
- ・ 丸井横須賀店様
- ・ ブティックキット様
- ・ ハイランドグループ水車様

- ・ 新井光枝様
- ・ 今江恭子様
- ・ 島崎弥生様
- ・ 今津道子様
- ・ 名和佐知子様
- ・ 浅野和子様
- ・ 細野清美様
- ・ 暖様
- ・ 旭製作所様

こどものへや

発行責任者 滝川郁子
〒239 横須賀市長沢 87-2
TEL. FAX (0468) 49-8349



「ゆっくりとゆっくりと」の心で…

健在なり ダメモト精神

こどものへやのベース

「こどものへや」も三回目のお正月を迎え、所員も指導員の方々もお互いに気心も知れて、生活のベースも決まりました。「ゆっくりとゆっくり」とが、時の流れだけでなく気持ちの上でも持てるようになりました。日課はややもするとマンネリになりがちですが、所員たちに安心感と安定感を持たせることにつながってきています。

今年もそんなマンネリズムの薬味として、外出の機会を増やしていきたいと思っています。皆の表情に余裕が出てきているのは、「ちよつと、そこまで」と出かけるレストラランやカラオケ・音楽会・おやこ劇場・電車に乗っての買い物など、いろいろな楽しみ方の積み重ねの結果かも知れないと、ちよつとびり自画自賛したりしています。その反面、静かにしていなくてはいけぬ場所、声を出してしまったり、障害を持っている故に、社会の常識と合わない行動をしてしまうこともあり、悩むことが多々あります。そんなことを、『たけのこ作業所』所長の川島さんにお話したところ、「十五年前、僕が初めて電動車椅子で街に出かけた時、小学生から石を投げられて、頭から血が流れたことがあったんですよ」と言われました。そんな思いをしな

今年 は 外出 に

所長 滝川 郁子

がら、少しずつ社会を変える努力をしてきて下さった先輩たちがいるのです。

少し嫌な思いをしたり、相手にさせてしまったことにもなるかも知れませんが、回数多く外に出ることにします。大勢の方々に出会うことにより少しずつ理解していただき、私たちも不都合なことがあれば謙虚に受けとめていきたいと思えます。重度の障害者も社会に慣れて、変わ

一月二十日の土曜日に、今年最初の『おやこ劇場』へ行きました。場所は横須賀芸術劇場です。当日はとても寒く、雨もバラつくというお天気でしたが、出し物は「森は生きていく」でしたので、楽しみにして行きました。劇場に着くと、やっぱり前回に来た時と同じで、エレベーターに乗るのが一苦労でした。もう一台エレベーターが欲しいヨ。劇場へは、おやこ劇場の係の方に先導していただき、車椅子用の席に行きました。でも、車椅子用のエレベーターに乗って感じた不安は、帰る時に的中しました。さてお芝居の方は、とても素晴らしい舞台装置や、わかりやすい話の進め方で、グレートの高いものでした。これは楽しい一日になるぞと、

障害者もお年寄りも、住み良い社会を作るといふ理念を実現する一つの方法として、「ゆっくりと、ゆっくりと」の心で、今年はお出かけることにします。あせらずに、時間をかけて進んでいきたいと思えます。

石田 徹 先生

よろしくね！

『小さき花の園』の療育訪問指導の担当が、佐藤先生から石田先生にバトンタッチされました。人見知りする所員が多い、我が『こどものへや』です。ちよつと緊張しながら最初の訪問日を迎えました。じつくりと時間をかけて、所員のことを

ワクワクしました。真一も騒ぐ事もなく、時々頭を振って感情を表したりして覗いている様子でした。ところがしばらくして「オヤツ」と思いました。女性のセリフは判るのですが、男性になるとセリフがハッキリ聞き取れないのです。身を乗り出したり、耳に手を当てたりしま

「おやこ劇場」車椅子観劇記

中野 征子

知っていききたいということ、日課にそって見ていただくことにしました。午前中の散歩は、畑の中の道を通り、東光寺へ初詣り。今年一年、全員健康でありますようにと祈りました。午後は、先生が持って来て下さった、どこをさわっても音の出るポーターと、電気の流れると「ピンポイント」とチャイムの音がする遊具で遊びました。皆で輪になって楽しみました。昼食も、先生が皆の食事のとり方を見て下さったのですが、気が散らすこともなくただけました。知らず知らずのうちに、先生の自然体のゆっくりにペースにのって過ごした一日でした。これからの月一回の訪問日を楽しみに待っています。

た。こんな素晴らしい舞台でしたのに、とても残念でした。真一は途中でスヤスヤしだし、チョツと舞台が彼には遠すぎた様です。舞台と一体感を感じるには、もつと前の方が良かったのかも知れません。帰りは車椅子用のエレベーターの位置が、劇場からロビーへ出る人の流れと閉鎖するドアに、ぶつからないうちに行けないという所に作られていたために、怖い思いをしてしまいました。おやこ劇場の係の方に助けていただいて、エレベーターに乗る事が出来ました。始めてで私の手際も悪かった事もあり、係の方に大変お世話をかけてしまいました。どうもありがとうございました。

でも以前からある文化会館の方が新しく出来た芸術劇場よりも、車椅子で利用しやすいのは皮肉な事では

所員たちの好きな場所？

『こどものへや』が開所してから
まる三年になろうとしています。所
員はそれぞれ自分の好きな場所を見
つけ、それが定着してきているよう
です。

幹大君の場所は、陽のあたる温か
い所です。静かに音楽を聴いたり、
指導員の世間話に興味深く耳を傾け
朋美さんと一緒に、全員が見渡せま
す。

朋美さんは、ガラス越しに庭の花
や緑を楽しむ事が出来、レディー一人
という事で、そこに自然と仲間が集
まってくる、ニッコリと微笑し、
コミュニケーションしています。

真一君は、ほとんど慎吾君の側に
いますが、その時の状況に応じて、
「食事の時、美しい人の所とか……」
人なつっこそうに自由自在に活発に
動きます。

慎吾君はあつがりなので、自然に
涼しい所を選んでいますが、淋し
がりやなのか、どちらかというとな
が大勢いる方が好きです。

康雄君は、部屋の東のドアの入り
口で、又、充君は玄関の前の西の入
り口がお気に入りです。両者共、そ
の場所を譲りません。時々慎吾君に
占拠される時がありますが、この時
ばかりは康雄君も先輩に何も言えず
指導員に助けを求める、楽しい頑固
さがあります。

充君は外が好きなので、玄関の前

方の森から聞こえる鳥のさえずりや
犬の吠える声、さわやかな風などに
耳を澄まして楽しんでます。又、
その場所でお客様を、「いらっしゃ
い」と確認するのが康雄君で、「さ
ようなら」とお送りするのが充君で
す。

夏は、緑側で水遊びや花火。冬は
陽当たりが良く、サンルームへと変
わります。所員は仲良く楽しくここ
に集い、いつの間にか自分の落ち着
く場所を見つけ、居心地の良い、こ
の空間が大好きなようです。

指導員 前田 邦子

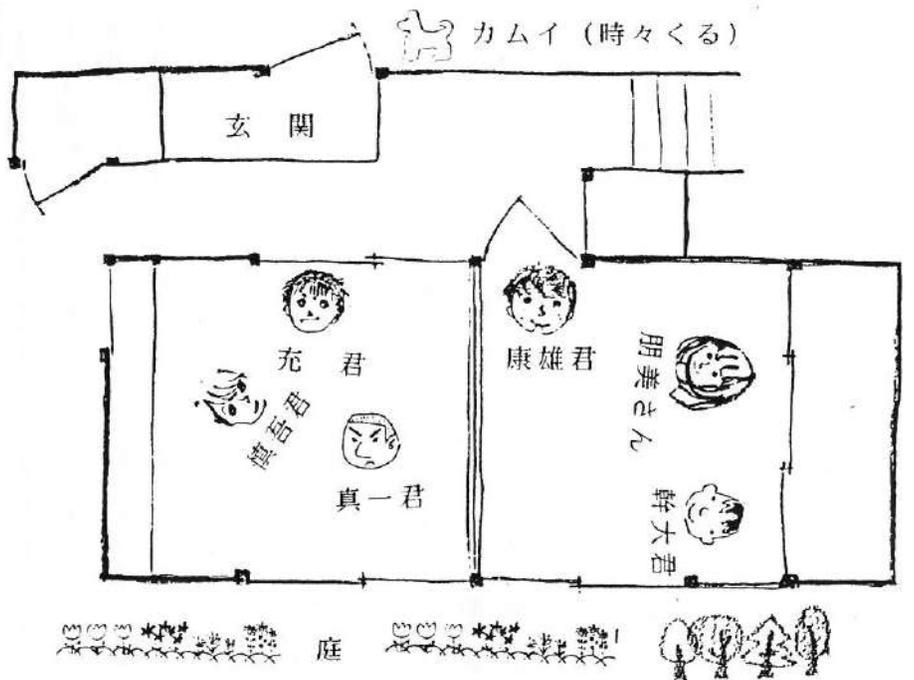
報告のあり方

一月二十七日、横須賀地区障害連
研修会が総合福祉会館で開かれた。
小児療育相談センター参事、菅井正
彦氏の「これからの地
域作業所のあり方につ
いて」の講演会に出席
した。

養護学校卒業後の通
う場所としての作業所
の果たす役割は、定着
してきている。これか
らは、通所者の要望や
要求にどう答えていか
れるかが課題となると
いうお話でした。卒業時に進路の希
望を聞けば、本当は作業所ではなく
就労したかったし、授産施設に通い

たかったと大部分の人は答える。し
かし、通所者は幼い頃から要求して
いいことを教えてもらってきていな
い。希望は潜在化し、かなえる方法
を知らない。働く事、余暇の過ごし
方、そして親の束縛を離れ、自立し
て生活していくことなどの希望や、
ニーズを先ず顕在化させる必要があ
る。これを作業所の職員・保健婦・
医者などが、職域より少しずつ守備
範囲を広げ、受けとめていくことが
一つの解決方法である。また作業所
同志が連携を強めれば、エネルギー
が生じ、これも問題を解決していく
力になるとのことでした。常に問題
を投げかけ続けていけば、呼応する
人や機関が出てくるというお話に、

力づけられました。
親の立場として特に心に残ったこ
とがあります。それは、「障害者は
二つの障害を持っている」というお
話です。一つは持つて生まれた障害
もう一つは、子どもが障害児である
という親の挫折感である。これはか
なり子どもものことを考えている親で
あっても、なかなか癒されない心の
傷であるということでした。親が「
あなたはあるがままでいい」と受け
とめ、支えている人は、障害が重く
てもプライドを持つて生きていかれ
るということでした。心して、共に
過ごしていきたいと思いました。



上野さんによって四季の花がいつも咲いています。
園芸セラピー効果で心が和みます。

二月行事予定

- 六日・職員研修
(たけのこ作業所見学)
- 県身体障害者連合会打合
- 十三日・スपोर्टス教室
- 十四日・機能訓練(清水先生)
- 十五日・作業所代表者定例会
- 二十一日・特総研
- 二十二日・あじさい交流会
- 二十五日・父母の会バザー

ありがとうございます

◇介助ボランティア

- 川原和輝子様
- 今江恭子様
- 福田香代子様
- 村田光恵様
- 沢田文子様

(音楽教室)

- 山本利子様
- 大野静枝様
- 新井光枝様

(給食)

- 谷 ゆう子様
- 宮前浩子様

◇作業ボランティア

- 三浦寿美恵様
- 最上堯子様
- 山崎和子様
- 細野清美様
- 垂見和子様
- 堀田園子様
- 山口美津枝様
- 今江恭子様
- 一柳 様
- 土川八重様
- 境母親クラブ有志様

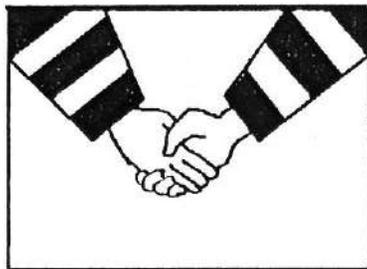
◇寄付

- 大沢央子様
- 森田洋子様
- 三田村由香様
- 矢部宮子様

所長 滝川 郁子

こどものへや

発行責任者 滝川郁子
〒239 横須賀市長沢 87-2
TEL. FAX (0468) 49-8349



障害者の基本的人権を風化させず

所員の力を最大限に生かした製品作り

指導員の研修報告

二月六日、佐野町にある、作業所の草分け、「たけのこ会協同作業所」「たけのこ会自立生活センター」を見学しました。

二月六日、佐野町にある、作業所の草分け、「たけのこ会協同作業所」「たけのこ会自立生活センター」を見学しました。そして又、自立生活のプログラムとしては、月に二回の勉強会を開き、自立生活・グループホーム作り・住みやすい町づくり等について勉強されているという事でした。

は、大泉さんがワープロに向かい、三枝木さんは使用済み切手のカット鈴木君、大武君達が切手の仕上げ作業をしていました。ここでは、ワープロ清書・コピーサービス・印刷・使用済み切手の収集販売をしているそうです。挨拶状・年賀状・プログラム印刷等お願いすることがあれば、きつと川名さんが親切に相談に乗ってくれる事と思います。仕事は丁寧、低価格!!

今年このテーマとして、現状での自立という事を考え、家族と暮らしながら、親に依存するのではなく、介助ヘルパーをお願いして家庭の中で自立した生活をする事、また外出時の自立という事では、ガイドヘルパーを利用しての外出活動等を取り上げているとの事でした。「たけのこ会」では、横須賀市の登録ヘルパー制度を利用して、「たけのこ会生活介助グループ」の方々を派遣するという、介助派遣活動を行って来ます。これはとても画期的な事だと思

「自立生活センター」があります。これまで「第二作業所」と呼ばれていましたが、「自立生活センター」の活動をいつそう充実させる為、名前も改め「たけのこ会自立生活センター」と付けられました。こちらでは七宝焼・和紙工芸・タイプアートと所員の方の力を最大限に生かした製品作りがされています。職員の石川さんから、体の緊張の強い所員の方が、片手で器用に空中で折り紙をされる様子をお聞きして、ふだんバザーで目になっている製品が、そんな風に作られている事を知り、本当に驚きました。

一月二十八日に行われたこの研修会において、十愛病院副院長の竹山孝二先生から、睡眠障害についての講演を聞く機会に恵まれました。睡眠障害は、障害の有無に関わらず、不安・不適応・ストレス等々、いろいろな理由から起こり得る。福祉の現場での質と量と密度が変化して、医療の現場でもギャップが大きい。両者の心を癒す施設で職員の心がすさむ現実がある。長時間にわたり、人に援助する過程で、心的エネルギーが絶えず要求された結果、心身の疲労と感情の枯渇等を主とする症候群（もえつき症候群）を呈することがある。その結果、睡眠障害を起こす人が少なくない。作業所等の職員は、まさにこの危険を

「たけのこ会」のゴッドファーザー（アルパシノではなく、マロロブランドの方かな？）川島所長が機関紙「たけのこ」で書かれている（自立とは特別な意味ではなく、働

けなくとも、自分の身辺処理ができなくても、健常者と同じ社会生活が営めるよう、障害者の基本的人権を風化させる事なく活かしていく事）この意味を所員の方々が作業所の活動の中で、日々学んでいました。この見学を通して、作業所の果たす役割の大きさを改めて考えさせられました。指導員 相川英里子

心より感謝を

二月三日の朝、私達に家を貸して下さいとある武川トヨ様の計報を受け取りました。当初「こどものへや」を開こうとした場所がだめになり、途方に暮れている時に、家を貸して下さいとお話をいただき、嬉しくて無我夢中で準備を進めたことを思い出します。昨年、体調がよい時に訪ねて下さり座椅子に座り、お庭を眺めていらした穏やかな横顔が目につかなくて、お目にかかれたのはその時一度だけですが、忘れることのできない方です。あらためて心より感謝を申し上げます。

又生活の中では、食事を少量でもよいから三回に分けること、生活様式は毎日同じようにする事、個人的に一人だけ遅く食べる事はしない方がいい。入眠時間と睡眠時間を考えて、見合った薬を用いる。昼寝は、一時〜三時の間に十五分位が効果的で、それ以上寝てしまうと、夜の睡眠に影響があるそうです。作業所等では、この誰もが眠くなる時間帯に、危険な作業をさせてはいけません。この他にもいろいろ注意がありました。この他にもいろいろ注意がありました。この他にもいろいろ注意がありました。

はらんでいる。確かこのような話から始まり、次に眠りのリズムを作ることの大切さをわかりやすく話して下さいました。その話の中に、夜体温が下がった時に眠り、昼体温が上がっている時は起きるといふ生体のリズム（サーカディアンリズム）を尊重し、個人差はあるものの、いつも同じ時間に起き、食べ、作業し、眠る等、生活のリズムを守っていくことで、覚醒時の生活を有意義なものにしていくことにつながると言われました。

「障害者作業所連絡会研修会報告」第二分科会「睡眠障害について」

指導員 植木智子

♡ 楽しい花の金曜日 ♡

ポランテアから見た『こどものへや』の

花の金曜日はデートの日。相手は五歳年下の青年で、しかも五人。彼らの自慢をしないのは、もったいない話なので、ちよっぴりしてしまおう。

彼らの中で一つ年上の慎吾君は、大人びた雰囲気だと第一印象で思った。何度も会ううちに、それはマイペースな彼の落ち着きが見えてくるようだとわかった。彼は遠くに目をやりながらも、さりげなく手を私の手と合わせる時々あり、私の事を気にかけてくれてるらしい一面が見られる。

真一君は、素直な気持ちで態度で表現してくれる。久しぶりに顔を出す時には、必ず私の側でグルグル回るとか、ふと気づくと私の膝の上に真一君の頭が乗っている時もある。それなのに私が顔をのぞくと、知らんフリ。可愛いテレ屋さん!!。

幹大君は、本当に楽しそうに笑います。思わずつられて大笑いしてしまう程。にぎやかな話声が大好きな幹大君は、うるさい位におしゃべりな私の話にも、耳を傾けてくれて、声を出して笑ってくれる。

初対面でいきなり抱きしめて挨拶してくれた充君。実はとっても頑固者!!。だって気付くまで、長い時間かかったよ。だって笑顔に負けてしまふことが多かったから。サンバが大好きな康雄君。するど

い観察眼で、人を見抜いてしまおう。能は少し恐ろしい。私の心の声が、聞こえているように思えるから。本当は「だめよ」じゃなくて、「いや」といつでも言いたいと思う心の声を。

二月二十二日(木)、「あじさい指の会」の皆様と五つの作業所の仲間との交流会に参加しました。リズム体操に始まり、鈴割り・ボール送り楽しいプログラムが続き、最後のジャンケンゲームまであったかい雰囲気の中のミニ運動会でした。

この会も回を重ねて四回目となり、所員達にとつておなじみの場となつてきています。うで、ささやかですがまわりの方達との交流ができています。ような気がします。

その1:ゲームの合間、自分の車椅子の点検をして動きを確認していた小田君ですがふと隣の「たけのこ作業所」の所員の方の電動車椅子に目が行き興味を持ったよう、「カシテ」とばかりに手を伸ばしていました。

その2:調子が余り良くない滝川君は、大勢の中でのプログラムよりは、ゆつくりと散歩に出たそうでした。近くにいらした方に同行をお願い

彼らと向き合うと、自分に正直になつてしまふ。そんな不思議な魅力を持つ彼らと、毎週デートできる私は、幸せ者だとしみじみ思う。

ポランテア 川原 和輝子

所員の好きな歌

『こどものへや』では、最近とても楽しい歌に出会いました。それは「

てっそりよが花な小
会交流の指のあ

いすると快く引き受けて下さり、滝川君は希望通り散歩に行く事ができました。

その3:中野君と向山さんは、「あじさい指の会」の方達の介助で、楽しくゲームに参加できました。

その4:調子良好の福谷君は、「ヤア、コンニチハ」とばかりにやさしいタッチをして、周りの人との交流をしています。

会長の富田さんから話を伺うことができました。会の名前前は、小さな花が寄り添って咲くあじさいの花のように、ろう者婦人と健聴者婦人とが「共に生きる」という思いからつけられたということでした。作業所との交流は、「たけのこ作業所」とのボーリング大会から始まり、少しずつ仲間が広がってきたそうです。私達『こどものへや』も「共に生きる」仲間なのだという事を改めて実感しました。

指導員 鈴木成子

おやこ劇場」で所員が知った、クニ河内さん作詞・作曲の「さよならバイ」という歌です。同じ旋律の繰り返しと、同じ言葉の繰り返しで、明るく簡単に、誰でもすぐ歌える曲です。クニさんはお髭の中に顔があり優しさとおたかさとユーモアたっぷりのお顔だそうです。

所員と指導員も気に入って、一日の終わりに全員で歌ってから終わりにしています。又明日も元気に作業所に来て、友達に会いたくなる楽しい歌です。

指導員 上野 幸子

さよならバイ

1. さよなら さよなら バイ
2. さよなら さよなら バイ バイ

たのしかったよ うれしかったよ } さよなら さよなら バイ バイ バイ バイ バイ バイ バイ バイ

三月行事予定

- 一日・作業所運営説明会
- 五日・職員会議
- 十一日・給食
- 十二日・スポーツ教室
- 十三日・清水先生による訓練会
- ・特総研
- 十六日・SKY研修会
- ・日・誕生会
- 二六日・四月四日 春休み

◎ ありがとうございます

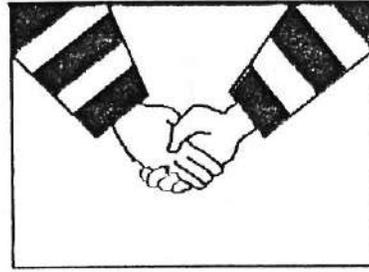
- ◇介助ポランテア
- ・沢田文子様
 - ・福田香代子様
 - ・成枝直美様
 - ・高橋賀子様
 - ・山本利子様
 - ・新井光枝様
 - ・谷 ゆう子

- ◇作業ポランテア
- ・熊本美枝子様
 - ・杉原静子様
 - ・石田妙子様
 - ・垂見和子様
 - ・山口美津枝様
 - ・土川八重様
 - ・細野ゆうき様
 - ・照葉会様
 - ・境母親クラブ有志様
 - ◇ご 寄付
 - ・池尻明子様
 - ・カミイのお母さん

- ・今江恭子様
- ・村田光恵様
- ・山崎和子様
- ・細野ゆうき様
- ・大野静枝様
- ・大沢央子様
- ・宮前浩子
- ・三浦寿美恵様
- ・最上堯子様
- ・細野清美様
- ・堀田直子様
- ・今江恭子様
- ・安田昌子様
- ・一柳 様

こどものへや

発行責任者 滝川郁子
〒239 横須賀市長沢 87-2
TEL. FAX (0468) 49-8349



広がる車椅子での行動 待ちに待った試乗の乗り心地は？

駅に車椅子で乗ることが出来る、エレベーターやエスカレーターが整備され始めました。

追浜駅にもエスカレーターが完成したので、充電を連れて「ダイエー」に行ってみる事にしました。駅には鍵のかかった柵があり（いたずらをする人がいるので仕方ないらしいです）その横に使用方法が書かれ、インターホンがついたボードがあります。車椅子で電車に乗りた

旨を伝えると、助役さんが来て下さいました。エスカレーターのスイッチを手を車椅子が乗るように入れ替えます。青い線の入った平らな所が来たら乗ります。動き出すとストッパーが出ます。車椅子はブレーキをかけているので、更に安心します。乗り心地は、上りは良いのですが、下りはやはり少し怖い感じがします。それに操作するのに時間がかかり、エスカレーターを使用したい他の乗客をお待たせしてしまうので、心苦しい思いをします。それに比べて汐入駅と「ダイエー」前の歩道橋は、エレベーターでの上り下りなので、とても気持ち良かったです。これから昇降機を作る時は、可能な限りエレベーターにしていたらいいなというものが、初めて乗った感想です。

でも駅員の方々の心配りで、楽しく乗ることが出来ました。お願ひしなくとも、ホームまで付き添い、車掌さんに行き先を伝え、到着駅にも

連絡しておいて下さり、乗り降りを手伝っていただきました。

帰りの汐入駅で、「たけのこ作業

①：「おはよう！」元気な声で挨拶車から抱き抱えられて、明るい和室に入る。一日の始まりです。

仲間の中に座ってホッとした顔、笑顔や手足の小さな動きで、今日の元気が伝わる、大事な朝の一時です。お母さんから注意して欲しい事等を伺う。今日も楽しかった、うれしかったと感じる喜びを、一緒に持ちたいからです。

朝の会を始めます。「名前を呼ばれたら返事をしましょう」のテーマソングが流れると、全員しっかりと座位の姿勢になります。一日のプログラムを聞く姿も落ち着いてきました。

「こどものへや」では、健康を保つ為に散歩を重視しています。雨や雪が降らない限り、午前中ゆっくりと時間を掛けて行きます。住宅地・畑や林をまわり、人や車、時には電車をしたり、野菜の生育の速さに驚くこともあります。夏の強い太陽、寒い北風の中を体で感じることも大切なので、毎日出かけます。今では散歩が大好き、雨の日は出られない事を納得させるのが大変です。

又、健康を考えて個別のマッサージや体重移動の練習等も、清水先生のアドバイスで取り入れていきます。

行事の中に季節感を出そう！調理

所」の野間さんにお会いし、一緒に帰って来られた事も楽しかったことでした。元はもう笑顔一杯でした。

この日、追浜駅はエスカレーターの点検日の為、帰りに一台使用できませんでした。今後は京急各駅の点検日程を「たけのこ会」を通して、

実習やパン・お菓子作りで、味覚と食材の感触を知る。水・土・紙の材質を手で触れて、「何かな？」考える充君と真一君の表情も楽しそうです。

②：作業所が狭いので、全員が集まることができません。特別な日課を設けてあります。「音楽を楽しむ日」「スポーツを楽しむ日」共に市総合福祉会館の施設を利用し、皆の顔がそろいます。

「音楽教室」は毎週水曜日、音楽の先生方(四名)に、ボランティアでご指導をお願いしております。

「こどものへや」の日課 三年間を過ぎて

時 間	指導員打ち合わせ・準備
9:00-9:30	健康観察
10:00-10:30	朝の会・全身運動・散歩
10:30-11:00	昼食・歯磨き・身体ふみ
11:00-11:30	音楽
11:30-12:00	個別課題・水分補給
12:00-12:30	帰りの会
12:30-13:00	生活福祉・指導員の記録・反省
13:00-13:30	翌日の準備・清掃

時 間	総合福祉会館
10:00-10:30	朝の会・出席確認・健康観察
10:30-11:00	リス体操・音楽・機能訓練
11:00-11:30	昼食準備
11:30-12:00	昼食
12:00-12:30	機能訓練・散歩・音楽
12:30-13:00	帰る

毎回季節にふさわしい曲を選曲して、ピアノ演奏と美しい声で歌って頂き、感激しています。鈴を持ってスイングする朋美さん、目を閉じてゆったりと聴く幹大君、好きな曲は指を立て、うれしいサインを出します。頭と手を大きく振ってリズムを取る康雄君、負けずに足で調子を取る真一君、みんなが好きな曲は大満足の表情が出るので、先生方も喜んで頑張ってしまうと、嬉しそうに話されます。テンポの遅い曲の時、急に静かになり顔を伏せた時がありま

毎月知らせるようになって、助役さんから提案がありました。

少しずつ街が変わり、駅が変わり支えて下さる方々がいて、障害者の生活も広がってきている、そんな事を実感した春の午後でした。

所長 滝川 郁子

③：初めは、あれもこれも欲張ってしまい、逆に振り回されて余裕が無かったと反省する。三年目に入って少し見直しをしよう、所員が心地よい作業所になっているだろうか？を再確認してみました。無理強いせずでも甘えは我慢させてみよう。一人一人が一日を充分に楽しみ、意志が伝えられ、力を合わせて夢をたくさん持って欲しいと願っています。

帰りの会で「さようなら、バイバイ」を合唱して日課が終わります。

指導員 岸 照子

心の健康講座

大江光の世界と癒しの音楽

三月四日、クラシック音楽は脳を刺激し、癒してくれるという内容のお話を聞いて来ました。

まず、実際にお産の時や、運動選手のイメージトレーニング、精神的ストレスの解消等、治療の道具として音楽が使われているという事が、いくつかの事例でお話されました。

又、知的障害を持つ大江光さんは小さい頃からモーツアルトやバッハ等、沢山の音楽を聴く事により、ご自身のつらい心を癒し、心の窓口を開いていかれ、ついには表現方法として作曲をなさるようになったというお話も興味深く聞きました。

では何故クラシック音楽なのか。人間の脳で、左脳は言語・計算・理論・知識力を、右脳は直感・イメージ・創造力をつかさどると言われています。クラシック音楽は、右脳に伝達され、刺激する事により、左脳を休ませ、左右の脳のバランスを良くし、心身の健康に役立ち、脳の老化とボケを防ぐそうです。クラシック音楽にはいろいろな曲があるのでその時の気分に応じて使い分ける事も大切で、震災のあった神戸では、チャイコフスキーの交響曲『悲愴』のコンサートをしたそうです。

悲しい時には悲しい音楽を聴き、涙を流す事により、負担が軽くなるという事でした。体内リズムに一番近いリズムの通奏低音を持つ曲を選

べば、身体のリズムが元へ戻り、安心感を増すそうです。近い将来、胃潰瘍の人へ薬のかわりにクラシックのCDが出る事もあるというお話もあり、驚きました。

お話の間、ずっとバックに音楽が流れており、疲れを癒す曲と言われている、『アルビノーニのアダージョ』がかかった時には、本当に癒さ

何気ない気持ちで、ボランティアをやってみようと思った私は、重度障害であるということに特に気にすることもなく、とにかく『こどものへや』に行ってみようと思いましたが

先ず誰もが思うことでしょうか。どのように接したらよいのかかわからないという戸惑いを覚えたのです。これは初めて会った人とのような話題で話したらよいのか、わからない感じがします。指導員、又ボランティアの方々を見ていて思ったのですが、人とのふれあいを必要とする人との交流は、母親的愛情を持って接する必要がありますのではないのでしょうか。(またその方が接しやす

いとと思った)が、私と同世代である彼らとでは、前に述べたような接し方は私にはできない、というよりそのようなことは不自然であるからです。つまり同じ視点にいたので、変に相手をこども扱いすることは私に

れたのか少し眠くなってしまうほどでした。

中野君は作業所の行き帰りの車の中で、最近良く『ボン・ジョビ』を聴くそうです。滝川君はジャズを

慎吾君とウォーカー

慎吾君は、総合福祉会館で行っている理学療法士の清水先生の機能トレーニングと、特総研に行った時と計2回、ウォーカーを使って歩行練習を行っていています。

乗り始めの頃は、スムーズに歩けませんでしたが、「慎吾くん、おは考えられませんが、一休どうすればよいのか答は出ませんでした。きつと子供の方がスムーズであったかと思いました。

最近、私の周りにもボランティアをしてる人や、しようと思ってる人が多くいるように思います。しかしそう思っている人も、実際どこでどのようなことが行われているかを知らずにいると思えます。大きな団体でなくとも、草の根の活動が自分たちのごく身近に存在することを、何かによって知ることが初めの一歩になるのかと思います。

今回の活動で新たに感じるものがあつただけでも私には大きな収穫であつたと思います。又、所員の人達、活動している方々や母親の方に会い、また色々なお話を聞くことができてよかつたと思っています。

聴く事が多いとか。所員皆の右脳を刺激し、疲れた心や体に安らぎを与え、勇気を奮い立たせてくれる音楽は、一体どんな曲なのでしょう。か。

指導員 中田光子

- 四月行事予定
- 四日・職員会議
 - 五日・おやこ劇場
 - 九日・スポーツ教室
 - 十七日・特総研
 - 十八日・作業所連絡会代表者会議
 - 二十日・二十八日
 - ・花と緑のまつり出店
 - 二七日・しらとりオープンデー

◎ ありがとうございます

◇ 介助ボランティア

- ・ 沢田文子様
- ・ 福田香代子様
- ・ 成枝直美様
- ・ 今江恭子様
- ・ 村田光恵様
- ・ 細野有紀様
- ・ 大沢央子様

◇ 作業ボランティア

- ・ 谷ゆう子
- ・ 三浦寿美恵様
- ・ 細野有紀様
- ・ 垂見和子様
- ・ 山口美津枝様
- ・ 上川八重様
- ・ 境母親クラブ有志様
- ・ 細野清美様
- ・ 沢田文子様
- ・ 最上堯子様
- ・ 堀田直子様
- ・ 今江恭子様
- ・ 安田昌子様

◇ 寄付

- ・ 原田千鶴子様
- ・ バルコン ナイトウ様
- ・ 三田村由香様
- ・ 橋 久美子様

緒でしたので、ベランダに出てみました。前方は米軍基地、右手は横須賀市街が見渡せました。慎吾君は気に入った様子で、ベランダを一往復しました。「慎吾君、すごいね」といって清水先生や福田さんに、とてもいい笑顔を返していました。友達達の真一君も練習中です。一緒にホールを歩き回ろうね。

指導員 一重清子

こどものへや

発行責任者 滝川郁子
〒239 横須賀市長沢 87-2
TEL. FAX (0468) 49-8349



一人一人の生活の充実を目指して

二つの施設見学から考える『こどものへや』の方針：

運営委員長 群馬大学教育学部教授

松田 直

4年目のスタートに寄せる

コミュニケーションルーム 『こどものへや』の活動が、四年目に入りました。所員の皆さんをはじめ、保護者・指導員・ボランティアの方々が、健康状態を大きく損なうことなく今日を迎えられたことを、先ずは素直に喜びたいと思います。

この一年は『こどものへや』を母体とした法人設立・通所施設建設の準備作業が、紆余曲折はありながらも、実現に向けて着実に前進しました。保護者の方々をはじめ、設立準備委員・指導員・ボランティア・賛助会員を中心として、多くの皆様の力がますます大きくなり、心から感謝申し上げる次第です。

さて、私はこの三月に二つの施設を見学する機会をもちました。

一つは、最近開設された卒後の重障児・者のためのA通園センター（精神薄弱者通所更生施設）でした。

ここは、十五歳以上の在宅の重複障害者と知的障害者を対象としており定員は四十名でした。二時間弱の見学でしたので、詳しいことは分かりませんが、特に印象に残ったことは次の三点です。

①指導に使える空間は、多目的ホー

ルも含めるとある程度広いように見えるが、四つある指導室のうち一つはすでに物置になっている。②トイレが三種類ほどあることと、車椅子や歩行器が個人用に用意されていることを除くと、個人用の教材はほとんど見当たらない。③職員の大半が若く、療育内容については手探りの状態である。経験者も少しはいるが、その人達は同じ建物内にある重症心身障害児施設の園

四年目も

新しい体験を

三年の月日は、本当に早く過ぎました。多くの方々の支えがあつてこそ、ここまで来られたのだと感謝の気持ちでいっぱいです。

所員は三年前に比べ、肩幅も広くなり、後ろ姿が逞しくなりました。可愛らしかった表情も、大人のものになりました。要求を言葉で表現できな

ない彼らは、今、何を求めているのだろうか。私達のはしていることは彼らの求めていることなのだろうか。大人になった皆を前にして、悩んでしまうこともあります。成長していく所員に、親も指導員も追いつ

生四十名への対応や巡回療育相談も担当しており、「気持ちはあつても実際には手が回らない状態」に近い。そのため、保護者の要望もなかなか職員全員が受け止める状態にはならず、療育内容の改善につながらないことが多い。

もう一つは、視覚障害を伴う重複障害者の居住施設B園で、ここは二日間続けてゆっくり見学させてもらいました。

①建物はかなり老朽化しているが、一人一人が安心して過ごせるように居室の改造を重ねている。

②職員と園生とのコミュニケーションを大切にしている、身振りサイン

や指文字・点字・墨字など、一人一人に合わせて職員が使いつけている

③動きが素早く、探索活動の旺盛な園生が新たに一人加わったことをきっかけとして、勤務体制を改めた。

④職員は経験者が多く、しかもより良い対処を目指して相互に率直な検討を重ねている。保護者の信頼は厚い。

B園では、園生一人一人に合った生活や療育を実現するための工夫の歴史が感じられました。

『こどものへや』はまだ四年目ですが、B園のように、所員一人一人の生活の充実を目指したユニークな係わりが、今年も明るく展開されると確信しております。

いていくのが大変です。（負けないように心身共に鍛えなければ！）

今年度より、社会参加促進費が重度障害者の通う作業所に出ることになりました。少しでも、外へ出かけることを考がえてきた『こどものへや』にとってはうれしいことです。ちよっぴり豊かになった予算に合わせて、新しい体験が一つでも増えるように、心がけていきたいと思っています。

所長 滝川 郁子

運営委員会報告

四月二十六日（金）七時より、総合福祉会館の第一活動室で開催しました。運営委員十二名中、七名が出

二年間ありがとう

指導員 外川セツ様が、この三月で退任されました。いつも温かい眼差しで、所員を見守って下さいました。今後は時々ボランティアとして『こどものへや』を訪ねて下さるそうです。お待ちしております。

古都鎌倉を散策

社会見学のトップバッターは、中野真一君

今年度の社会見学のスタートをきって、中野真一君と指導員二名（植木、上野）で行って来ました。真一君の疲れ等を考え、余り遠くなく、電車に乗れ、楽しめそうな所「古都鎌倉」にしてみました。

四月十九日（金）JR横須賀駅より、二十分程電車で揺られ鎌倉へ。鎌倉に着いてすぐ昼食の心配をするのは、このメンバー位でしょうか？雑誌るるぶ「鎌倉を歩こう」で、広くて落ちついた雰囲気のお店を写真と文で調べておきました。先ずは車椅子を受け入れてくれるか、確認しに行く。とても快く「どうぞ」「お待ちしています」に、「これで安心して散策ができるね、真一君！」

食事まで小町通りの店を覗き、お香やおせんべいの匂いを鼻にしながら、ぶらぶらしました。

食事は小町通りを住宅街に少し入った、ゆったり静かで趣のある素敵なお店、窓辺の眺めの良い席を用意しておいてくれました。ちよつと値段が高かったけれど、鎌倉でこの雰囲気の中で食事が出来たのだから、仕方がないですね。

食後は八幡宮へ。下拝殿を見て、「ここで、静の舞」を舞うのだね。境内を中に行くと、鳩の多さに真一君はびっくりした様子。それでも手の平に豆を置き、鳩に餌をあげました。真一君ノ運だめしをしてみよう。真一君自ら取ったおみくじは、「小吉」まずまずだね。大銀杏をパツク

に「はいポーズ」

拝殿まで行かず、階段下で手を合わせ、自分・家族・皆の幸福を祈り（おさい銭はナシ、ごめんさいい）源平池へ：「ぼたん園に入ろうか」入園料金六百円に、思わず足が止まってしまう。花よりだんご、駅前の喫茶店に入りお茶とケーキで一日の反省を三人でしながらしばし休憩。

今日一日の真一君の様子は、寝不足を心配するお母さんをよそに、非常に意欲的。横須賀駅よりいろいろなものに興味しんしん。電車や行った先々の全ての物に興味を示し、顔を覗かせていました。

四月十八十九日の二日間、長沢の西脇農園で、イチゴ狩りをしました。広いハウスの中では、鮮やかな緑の葉の陰から、真っ赤なイチゴが顔を覗かせていました。

慎重な小田君は、暫く周囲を観察していました。が、一食食べると猛烈な勢いで食べ始めました。しつかり遅れを取り戻しました。

甘い物には目のない福谷君は、ミルクをたつぷりつけて食べていました。二日目にも行くことの出来た福谷君は、イチゴが大好物の向山さんは、お代わりがなかなか来ないので福谷君からも、もらって食べていました。ダイエツトは明日から？

殿様気分を満喫した。滝川君は、笑顔がいつ

を上げ、「なるほど、こうなのか」と言わんばかりに見回していました。ゆつくり散策が出来、楽しそうな真一君の表情を見てみると、ちょうど

新指導員八高橋賀子Vさんのご紹介

皆さん今日は。この四月より仲間

に入れて頂きました。どうぞよろしくお願い致します。元気一杯の所員の皆さん、所長始め、立派なお母様の方、個性豊かでユーモアたっぷりの指導員の皆さん、歌と料理と庭いじりの好きな私です。これからは、所員の皆さんと四季の移ろいを身体一杯に感じながら、散歩の出来る事々々とも嬉しく思います。有意義な時間を過ごせるよう、又、私のこれま

ばい。とにかく良く食べました。飽きるまで食べ続けました。食べた量では君がチャンピオン！

食べる事の大好きな中野君は、ハウスの入り口にきてすぐわかりました。甘い香りでイチゴごと。夢中で食べたので、白いトレナーが赤く染まってしまいました。車椅子の所員達にとつて、イチゴ狩りは難しい事

へ出の所と思いついていました。しかし車椅子の移動等を、西脇農園の方達に協力して頂いて、色と香りと味を満喫すること

うに？
らよごは
か見子達
やてイ員
へ出の所
のへんた
も外され
ど歩くま
こ一た囲

ができました。ありがとうございました。さいました。

ど良い距離だった様です。家に帰ってもご機嫌で、家族に報告をしていたとの事です。

指導員 上野 幸子

ハンドベルって、ご存知ですか？

ピッカピッカの ハンドベル

「うん、知ってる知ってる。でもダメあれちつともやせないんだから」なんて、ダンベルと勘違いしないで下さいね。これは楽器です。教会の屋根にあるあの鐘をずーと小さくして、持ち手をつけたという感じ。そしてその一つずつ調律してあるベルを鳴らしてメロディーを演奏します

このハンドベルが四月から「こどもへや」の楽器の仲間に加わりました。全部で二十一音。金色にピカピカ光るベルを振ると、澄んだ音が響きます。目下、「山の音楽家」を練習中。「はい、あなたはドとファ次はソとラ、そしてシとドね」と言う具合に、一人が右と左に一音ずつ持ちます。「では、一・二・三、ド

ファファソソラーシド：緊張、緊張エー右手がラで左手がソと、心と手に言い聞かせてもなかなかスムーズにはいきません。

せつかくの珍しい楽器なので、六月五日（水）に予定されている第二回山鳩コンサートで、皆さんに聞いて頂くと思っています。

迄う、ご期待！

五月行事予定

- 七日・職員会議
- 八日・清水先生による訓練会
- 九日・武山養護学校福祉連絡会
- 十四日・スポーツ教室
- 二十一日・社会見学 ②
- 二十七日・特総研
- 二十七日・社会見学 ③

◎ ありがとうございます

- ◇ 介助ボランティア
- ・ 沢田文子様
- ・ 今江恭子様
- ・ 福田香代子様
- （音楽教室）
- ・ 山本利子様
- ・ 大野静枝様
- ・ 新井光枝様
- （給食）
- ・ 谷 ゆう子様
- ・ 宮前浩子様

- ◇ 作業ボランティア
- ・ 三浦寿美恵様
- ・ 最上堯子様
- ・ 石田妙子様
- ・ 細野清美様
- ・ 垂見和子様
- ・ 堀田直子様
- ・ 山口美津枝様
- ・ 今江恭子様
- ・ 土川八重様
- ・ 安田昌子様
- ・ 山崎和子様
- ・ 照葉会様
- ・ 境母親クラブ有志様

- ◇ 寄付
- ・ 川崎伸江様
- ・ 青木美代子様
- ・ カムイのお母さん
- ・ 旭 製作所様
- ・ 三浦藤沢信用金庫様

指導員 相川 英里子